

問題種

イヌホオズキ

-大豆畑で汚損粒の原因となる雑草-

同定のカギ

・大豆収穫期には枯れない

・黒く熟した光沢のない果実が房状につく

形態・特徴

日本全国に分布する、ナス科の一年生植物。

基部からよく分枝し、草高は大豆と同程度となる。

本種に類似する雑草として、オオイヌホオズキ、アメリカイヌホオズキ、テリミノイヌホオズキなどがあり、イヌホオズキ類の分類は難しい。

本種は、花は5裂するが、切れ込みが浅い、果実は房状につき、黒く熟した果実は光沢がない、種子は長さ約2mmと他草種と比べて一回り大きい、といった特徴がある。



生態特性

大豆播種前より出芽がみられる。大豆播種後の1ヶ月間に出芽が集中するが、中耕培土等で土を攪乱している間には出芽し続ける。

本種の生育は大豆被覆条件下では著しく低下し、東北地域で6月上旬に大豆を播種した場合、6月下旬までに出芽した個体は結実するが、播種1ヶ月後の7月上旬に出芽した個体は結実しない。

裸地条件では8月上旬に出芽した個体でも結実する。

雑草害

大豆の欠株などがなければ、多発することはまれであり、減収を引き起こすことは少ない。

降霜期まで茎葉が枯れず、開花や結実が持続的に続くため、黒く「熟した果実」が収穫物に混入し、汚損粒の原因となる。



写真:上から
「成植物」
「果実」
「残草状況」

防除のポイント

1. 大豆群落内での生育は著しく抑制されるので、基本技術を励行し、欠株が無いように大豆栽培を行う。
2. 大豆生育初期に発生した個体が大きくなるため、初期防除が重要であり、有効な土壌処理剤、茎葉処理剤を組み合わせる。
3. 大豆収穫期に残草した個体は汚損粒の原因となるので、手取り除草を行う。

イヌホオズキ

Solanum nigrum

Ver.2.

お問い合わせ
農研機構
東北農業研究センター
水田輪作研究領域
川名義明
0187-66-1221(代)



耕種的防除**耕起**

大豆播種前に発生する個体は丁寧な耕起によりすき込む。

大豆群落による被覆効果

大豆群落内での生育、特に遅れて出芽した個体の生育は大豆の被覆によって著しく抑制される。大豆収穫時の大きな個体は大豆生育初期に発生した個体、もしくは欠株部分から発生した個体が多いので、欠株を生じないような大豆栽培を心掛ける。

大豆播種時期を遅らせる

大豆の播種時期が遅くなるほど、発生数が少なくなるため、播種時期を遅くすることが可能であれば、有効な防除手段となる。

田畑輪換の効果は小さい

2年間水稲作付後の転換畑でも発生がみられるので、田畑輪換による種子死滅効果は期待できない。

機械的防除

中耕培土期には個体が小さいので、中耕培土による防除効果が期待できる。

化学的防除**土壌処理剤**

アラクロール、ジメテナミド、リニュロン、フルミオキサジンなどの成分が有効であり、これらを含む除草剤を散布する。

茎葉処理剤

ベンタゾン液剤(大豆バサグラン液剤)の効果には種内変異が認められており、効果が劣る場合がある(他のイヌホオズキ類に対しては効果が劣る)。新規剤のフルチアセットメチル乳剤(アタックショット乳剤)は効果が高い(他のイヌホオズキ類雑草に対してはやや効果が劣る)。

中耕培土後に発生または残草した場合は、リニュロン水和剤(ロロックス水和剤)などの畦間・株間処理または非選択性茎葉処理剤の畦間処理を行う。

除草剤	薬量	処理方法等
フルチアセットメチル乳剤 (アタックショット乳剤)	30-50mL/10a	だいたい2葉期～開花前、収穫45日前まで
リニュロン水和剤 (ロロックス水和剤)	100-200g/10a	畦間・株間処理、収穫30日前まで

大豆播種前、大豆出芽前、畦間処理ではこのほかにも効果のある除草剤があります。

※除草剤の使用にあたっては、ラベルをよく読み、よく理解した上で使用方法を遵守してください。

手取り防除

大豆収穫期に黒く熟した果実をつけた個体が残草した場合、著しい汚損粒の原因となるので、手取り除草などで確実に防除する必要がある。

※本パンフレットは、農林水産省委託プロジェクト研究「収益力向上のための研究開発」の成果に基づいて作成しました。

2019.3
作成版